船舶事故調査報告書

平成２３年６月３０日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決
委　　員　　横　山　鐵　男（部会長）
委　　員　　山　本　哲　也
委　　員　　石　川　敏　行
委　　員　　根　本　美　奈

事故種類	火災
発生日時	不明（平成２２年６月６日　０２時３０分ごろ～０４時００分ごろの間）
発生場所	長崎県西海市黒瀬地区沖の魚瀬（うおせ）付近 寺島橋橋梁灯（Ｌ１灯）から真方位０２３°１．２海里付近 （概位　北緯３３°０３．３′　東経１２９°３８．７′）
事故調査の経過	平成２２年６月７日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 Ｌ×Ｂ×Ｄ、船質 機関、出力、進水等	 漁船　満栄（みつえい）丸、４．７トン ＮＳ３－４９２３２（漁船登録番号）、個人所有 １１．９０ｍ（Lr）×２．８８ｍ×０．９１ｍ、ＦＲＰ ディーゼル機関、２６５kW（漁船法馬力数）、昭和６０年１月１５日
乗組員等に関する情報	船長　男性　４６歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日　昭和５７年４月２７日 免許証交付日　平成２１年６月２９日 （平成２６年７月２２日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	全損
事故の経過	本船は、船長１人が乗り組み、平成２２年６月５日２０時００分ごろ、西海市黒瀬地区沖の魚瀬付近に投錨したのち、主機を中立運転として発電機を駆動して航海灯、水中集魚灯（３kW）及び作業灯を点灯し、水中集魚灯及び魚群探知機を左舷中央部から海中に入れて一本釣りを始めた。 船長は、釣果が良くなかったので、翌６日０２時３０分ごろ、集魚灯などを点灯したまま船首部の物置室で仮眠した。 船長は、０４時００分ごろ、目が覚めて甲板に出たところ、機関室囲壁付近から炎と煙が立ち上がっているのを認め、火勢が強かったので、本船で火災が発生したことを携帯電話で家族に知らせ、０４時１０分ごろ救命胴衣を着用して海に飛び込んだ。 船長は、０４時３０分ごろ家族が乗船した漁船に救助され、本船は、来援した海上保安庁の巡視艇の放水消火により鎮火したが、船体は全焼して水船状態となり、僚船により付近の岸壁へえい航された。
気象・海象	気象：天気　晴れ、風向　南、風力　１ 海象：海面　平穏

その他の事項	船長は、出港前に機関室内を点検したが、異状を認めなかった。 機関室は、船尾寄りに配置され、機関室囲壁の上に操舵室が設けられていた。 主機は、船長が火災を発見したときには停止しており、また、航海灯や作業灯が消灯していた。 本船は、消火器を積載していなかった。	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	不明 不明 なし 本船は、西海市黒瀬地区沖の魚瀬付近において、水中集魚灯などを点灯して錨泊中、船長が、０２時３０分ごろから仮眠し、０４時００分ごろ目が覚めて機関室囲壁付近から出火していることに気付いたことから、この間において機関室から出火したものと考えられるが、焼損が激しく出火の状況を明らかにすることはできなかった。
原因	本事故は、夜間、本船が、西海市黒瀬地区沖の魚瀬付近において、水中集魚灯などを点灯して錨泊中、機関室から出火したことにより発生したものと考えられる。	
参考	今後の同種事故等に伴う被害の軽減に役立つ事項として、次のことが考えられる。 本事故では、携帯電話により家族に連絡したのち、海中に飛び込んで救助されたが、万一に備え、携帯電話は、防水型のものを使用するか、又は防水パックに入れておくことが望ましい。	